

令和3年度 みんなのとっぽこども園 事業計画

【事業計画の概要】

基本理念 《子どもが子どもらしく生きる》

こども園の生活を通して、平和な社会を創造する。そのために、子どもたちが人とのつながりを大切にしながら、毎日を明るく楽しみながら生きていくことができる自立した力をそれぞれで身に付けていけるようにする。

長期計画

*保育について

☆ こども園の役割である子どもの最善の利益を考慮し子どもが生活する場としてふさわしいものにする。

- ・子どもが主体的に活動できる場所と環境の整備をする。
- ・職員が保育の質を上げる研修を継続していく。
- ・ゆとりを持ち保育ができる保育体制と園全体で子どもを見ていく体制作り。
- ・子どもの人権を守る。

- ・園と家庭が連携して子どもの状況や発達過程を踏まえ、環境を通して養護と教育を一体的に行うことを中心に「見て・まねて・学ぶ・やってみて・教えて」と育ち合う教育・保育をする。
- ・子どもが子ども社会を形成し、子ども社会のルールを作り、守ることで、社会性の基礎を培う保育をする。
- ・一人ひとりの発達の連続性を踏まえ丁寧に教育・保育をする中で、保育者も生活者モデルとして一緒に生活していく意識を持ち子どもの生活を豊かにする保育をする。

*チームについて

☆ 今年も専門性を高め合う職員チーム作りを継続していく。

- ・保育者として専門性を高め合う研修（内部・外部）に参加する。
- ・子どもの人権について学び合う。
- ・SDGsとSTEM教育について学び合う。
- ・保育者は、子どもの主体的な遊びを認め、遊びへの関わり方を共有する。そのために、保育者相互の保育観を認めて保育ができる関係を作るための話し合い・情報共有を継続する。
- ・主幹を含めたベテラン職員で、チーム保育（同僚性）について定期的に話し合いながら、お互いの思いや考えを伝え合い、チームの中での自分たちのあるべき姿を考えていく。また経験の浅い職員や新人職員などの育成を含めて、職員ひとりひとりが、主体的に保育ができるよう認め合うことを、見守る存在になるよう努める。
- ・ひとりひとりが担当や役割に責任を持ちながら、一つの目標に向かい協働していく。

*SDGs活動

・エコ活動 「12作る責任 使う責任」

プラスチックごみの削減を行う活動を継続。各クラスでのごみの分別やマイバックの推進をしていく。

環境教育として幼児クラスではSDGsについて身近なことから伝え、興味関心を持てるような活動を行う（資源教育）

園内で、栽培・収穫して作る⇒生ごみのたい肥作り

給食は食材調整や調理の工夫・子どもの状況を踏まえ、残食を減らす工夫を継続していく。

*業務の簡素化

・職員の勤務時間の削減をしていく。2022年度は2000時間を切る。

職員が事務をする時間をみんなで保障し合う。

行事の準備など、計画的に行いながら、当日の準備も業務時間内で行う

夏休みや平日の当番を含め、土曜勤務時間を短くする。

書類は今年度を迎えるにあたり、確認し変更をおこなったが、継続して簡素化を検討していく。(重複や必要な書類の分類等)

*行事について

行事は子ども達が楽しくウキウキする日になるよう、子どもを真ん中に置いて考えていく。職員は意図を持つこと、保護者に発信していく。

*午睡について

昨年は5歳児が3歳児保育室(ランチルーム)や園庭で午睡時間を有意義に過ごせるよう職員訂正を整え、遊びの内容を担当者が考えてきたが、今後は年齢(2歳児~)を超えて、個々の生活時間を保障できるよう寝ている子・起きた子のそれぞれの保障ができる空間を検討する。

*園庭作り

「子どもが楽しめる園庭」を継続して子どもと共に考えていく。

子どもが遊び込める道具と素材を用意する(木片・タイヤ)草が生える場所作り。(プランター・実のなる木を植える。

水が使える環境作り(雨水の再利用を進める)

短期計画

*子どもがやってみたいと思える環境を考え作っていくこと。気づける声かけをすること。子どもの思いに耳を傾け応答しながら、職員間の日々の振り返りを大切に子どもの思いが実現できるようにしていく。

*人権を大事に子ども・保護者・職員同士が関わる。

*職員同士が子どもを真中においた保育の話をする中、同僚性を育めるようにしていく。

*日々の保育を大事にしながら、みんなで楽しめる行事を子どもと話をしながら作っていく。

*1号認定児が長期的な休みの後、多様な生活経験が生かせる園生活の工夫をする。

*園の保育を理解してもらえるよう、保護者に保育の意図を伝えていく(Hpのブログ・巻頭言・日誌・クラス便り・ノート等)

*ものを大切にする教育をする。

【保育計画のポイント】

保育の方針 《私は私。でも、私はみんなの中の私。》

みんなのとおぼこども園が目指す子どもの姿は、法人の教育・保育方針である

「私は私。でも、私はみんなの中の私」です。

ひとりひとりを大切にしながら、やりたいことを保障するとともに、集団生活の中で、人との関りを大事にする保育を行いながら、子どもが自分らしく自己発揮し楽しく好きなことを十分できる環境作りを行う。

人との関りの中、自分と違う考えに触れ、それを認め合いながら主体的かつ協調しあいながら生きていける子どもの姿を思い関わること。

子どもと応答的な関係を構築しながら、主体的な活動を保障していく。

【保育の方法】

見守る保育

保育の目的を実現するために、私たちは、環境を通して子どもの発達を保障する。これは、子どもの自ら発達しようとする力を引き出し、可能な最大限まで発達させることを意図した環境を用意した保育を行う。

1. 生活と遊び・ゾーンとコーナー保育

子どもが自発的・意欲的に関われるような環境の構成と、そこにおける子どもの主体的な活動を大切にする。

2. 一斉保育から選択する保育

子ども一人ひとりの発達について理解し、一人ひとりの特性に応じ、発達の課題に配慮して保育する。

3. シティズンシップ

子どもは、多様な大人、子ども同士の体験から、社会を学んでいく。

4. 見守る保育

保育者は、子どもが自発的、主体的、多様な人との関係の中で活動するために、いつでも駆け込める信頼できる存在でいること。

5. 異年齢児保育

子ども同士の中で刺激し合うということから、様々な年齢との関わりを保障する。(見て、真似て、関わって、教わって、教えて、一緒にやって)

6. チーム保育

子どもは、職員のチームによって、多様な社会との関わりを学習する。

7. インクルージョン保育

子どもを、男女、しょうがい、年齢による刷り込みを持たない。

8. やってあげる保育から見守る保育へ

子どもが自立していくこと、自己の意思を表現することを保育者は妨げない。

9. 保育者の人権

保育者は、子どもに奉仕したり、世話をする人ではなく、一人の人格を持った人として子どもと共に生活する。

10. 保育の原則

乳幼児基本法に則った保育を展開する。

【食育計画のポイント】

健康な生活の基本として「食を営む力」として望ましい食習慣の定着と食を通じた人間形成及び家族関係づくりによる心身の健全育成に向け、その基礎を培う。

「楽しく食事をする」ことを大事にする。

☆子どもが生活と遊びの中で意欲を持って食に関わる体験を積重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみあえる。

☆一人ひとりの子どもの心身の状態等に保護者や医師と協力して応じる。

- ・コーナーでの食育活動（給食職員がランチルームやもり保育室にて）
- ・お手伝い活動（お米とぎ・配膳準備・片付け等）
- ・栽培・収穫・調理・食べる

食を通じて多様な人と関わり、心身共に成長できる環境を作っていく。

【学校保健計画のポイント】

全職員の連携、協力の下、一人ひとりの子どもの健康の保持および増進ならびに安全の確保と共に園の子ども集団全体の健康及び安全の確保に努める。

「子ども達が、園生活を快適に送り健康に成長・発達していけるよう環境を整え見守っていく」

- ・心身ともに健康で安全な生活が送れるよう、児童の情報を共有していく。
- ・子どもの健康状態や発育、発達状態について常に把握する。
相模原市独自の「健康台帳」を使用、園医による健診日には、発達チェックを行う。
- ・感染症予防について、園と家庭と連携を取っていく。
- ・月の目標に応じた保健指導を年齢に応じて行っていく。
- ・感染症など子どもにわかりやすく記したものを掲示し、保護者にも同じ情報を伝えていく。
- ・感染状況による職員の感染対策・感染予防を行い安全な生活が送れるよう配慮する。また状況共有をしていく。

☆職員

- ・年1回の健康診断・月に1度の細菌検査を実施。状況に応じ対応していく。
- ・インフルエンザ予防接種
- ・ストレスチェック

【地域との連携】

＊幼稚園・小学校との連携

学校訪問（校庭で遊ぶ・学校内見学等）

在園児と卒園児の繋がりを大事にしていく。

職員同士の交流は引き続き要望していく。

- ・幼児期の育ちを小学校で受け止めて伸ばせるよう引継ぎをしていく。

＊ボランティアの受け入れ

地域のボランティアセンターとの繋がりを持ち、継続してくれているボランティアさんとの関係を大事にする。

職場体験・インターンシップの受け入れの他、高校生・大学生を積極的に受け入れる。

そのための情報発信をしていく。

＊養成校との連携

次世代の保育者の育成をしていく。

実習生を受け入れと学校訪問で情報共有をしていき、採用にも繋げていく

＊地域への活動

子育て支援の充実

ソレイユさがみと協賛の「親子ふれあい広場」は未定のため、できない場合は、園内で行う「みんなの広場」や行事での交流事業を行っていく。

近隣公園等での子育て支援（手作り玩具配付等）

子育て相談（随時）

栄養相談（随時）栄養士の講座

一時預かり

子育て支援は園のHpにて動画配信も行いながら、少しでも身近に感じてもらえるように活動の仕方を考えていきたい。

【社会貢献計画】

園の掲示板での情報提供

地域コミュニティー広場としての場所の提供（ランチルーム）

昨年できなかった「震災を考える日」に地域の方の参加を呼びかける。

（備蓄品の試食・DVDを見る等）

防犯訓練への参加呼びかけ

【保護者への配慮】

保護者と応答的な会話を大事にする。

ひとりひとりの思いや考えが違うことを理解し、保護者の気持ちを受け止め、保護者の自己決定を尊重する。

保護者の発信への早い対応（面談は随時行う姿勢を持つ。）

「いつでも見に来て下さい」の姿勢を持つ。

保護者が子どもの成長に気づき子育てに喜びを感じられるように努める。

日々の保育と行事の関りについて丁寧に伝えていく。

行事での子どもと保護者・保護者同士・子どもと子ども・職員と子どもの関わる時間を大事に考える。

【研修計画】

園の保育の質及び保育者の技能・知識を高めるために次のように計画する

重点ポイント

*園内研修

ひとりひとりの保育者のドキュメンテーション記録を聞き、その後ファシリテーションをしながら個々の考えを聞くことを行ってきた。その中で職員は職員それぞれの捉え方が違うことや自分から見えてない子どもの姿に気づかされ、よりひとりひとりを丁寧に見て関わるようになった。今年もドキュメンテーション記録を通して、子どもを真ん中に置いた話しをしながら個々の捉え方の共有をしていく。全員でいつでも子どもの話・保育の話ができる関係性を大事に、昨年同様に非常勤職員を含めた全職員が同じ研修を行う（2グループにて実施）。

園内公開保育

救命研修・エピペン研修・感染症対応について

*法人研修

1年目・2年目（法人内交換研修）3年目（他法人園見学）5年目（自分の保育の振り返り）

ベテラン研修

八王子・相模原地区では5年目以上の職員のズームでのファシリテーション

ベテラン職員の交換研修を行う。

*外部研修 自己課題を持ち参加する。

相模原市で行う研修・GT研修・幼稚園教諭更新研修

その他外部機関の研修

*キャリアアップ研修

相模原市の研修（乳児保育・幼児保育・障がい児保育・食育アレルギー・保健衛生安全対策・保護者支援子育て支援・マネジメント）に参加

【防災対策】

非常時に備えて全職員が一体となって、危機管理及び防災対策について日常業務に緊張感を持って従事し、緊急時には、報告、連絡、相談などを機敏に行います。そのために私たちは次のような計画を作成し実施します。

1、ねらいを持ち、月に一度の災害避難・消火訓練（初期消火）を実施。（第二避難場所・広域避難場所への避難・抜き打ち訓練・時間帯を変えて実施）振り返りを行う。

全職員が通報訓練・消火訓練を実施

2、震災を考える日（9/1）相模原地区で連携・保護者の引き取り訓練実施

他 防犯訓練（外部の方の指導）・竜巻訓練を実施

保護者には入園時に「地震防災・防犯マニュアル」を配付。

いつ起こりかわからない災害に対して、子ども自身が危険を察知し、自分の身を守るよう毎月の訓練の中、身に付け実行できるようにしていきます。

【第三者評価】

行事の後など、アンケートを実施し、保護者の声を聞き改善もしていく。また園（法人）の理念が保護者に浸透しているのか等、園の教育保育についてのアンケートを年度後半に実施し、園としての振り返りをする。

第三者評価 受診予定はない。

【自己評価】

保育の質を高めることを目的に人事考課と合わせて自己評価を行う。また、年度末には全職員が参加して施設自己評価を行う。施設自己評価についてはホームページに掲載する。

【修繕計画】

内 容	時 期	金 額
フロン排出抑制法対策 簡易点検	年 4 回	372,400 円
LED 交換工事	秋まで	20 万
ランチルーム（3歳児保育室）網戸修繕	4 月	20 万

【物品・設備備品購入計画】

内 容	時 期	金額
食器交換	4 月	15 万

【職員の配置】

園長	正職 1	うみ組	正職 5
主幹保育教諭	正職 1		非常勤 3
もり組	正職 3	栄養士 調理師	正職 2
	非常勤 1		非常勤 2
あおぞら組	正職 2	夕方・延長保育 午前保育補助	非常勤 2
	非常勤 1		非常勤 1
フリー保育教諭	正職 1	事務 土曜保育	非常勤
	非常勤 1		非常勤
地域支援	非常勤 1		

【園児構成】

年齢	4月在籍数	途中受入数	クラス編成
5歳児	15 (1)	0	もり組 5歳児 ぐんぐん 3・4・5歳児異年齢クラス
4歳児	17 (2)	0	もり組 4歳児 わいわい
3歳児	14 (1)	0	もり組 3歳児 にこにこ
2歳児	14	(1)	あおぞら組 2歳児
1歳児	14	0	うみ組 0・1歳児異年齢クラス
0歳児	6	0	ころころ・ぴよぴよ・こっこグループ

【年間行事計画】

月	計 画	月	計 画
4月	入園・進級式・内科健診	5月	保護者懇談会・歯科検診 プラネタリウム見学
6月	お楽しみ会	7月	七夕・七夕送り・とっぼ祭り
8月		9月	震災を考える日・プール納め
10月	フィールドデイ・遠足 (2・3・4)	11月	遠足 (5) 内科健診
12月	もちつき・クリスマス会・歯科検診	1月	おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶ会
2月	プレイデイ・節分	3月	ひな祭り・お別れ遠足 (5) お別れ会・卒園式

定例の行事

各月	誕生日会、身体測定、災害訓練、健診日 (0歳は年6回・1歳は年4回)
----	------------------------------------

☆ コロナ感染症の状況により、延期や内容変更もあります。

【その他】

<p>法人系列3園で連携を取り、行事や研修・災害の際の協力体制を作っていく。また職員交流もしていく。</p> <p>連携園としては、3園でみくり保育園の受け入れを含めた情報交換など、随時話合う機会を設けていく。</p> <p>運営について</p>

こども園になり3年目。1号児・2号児と受け入れに柔軟に対応できるよう定員変更もおこなったので、保護者のニーズに答えられるよう考え対応していく。

駐車場について

今年も利用希望者の方には、「利用契約書」を出してもらい対応していく。混む時間帯を掲示し、早めに車に戻るよう協力をお願いしている。今後も安全に利用してもらいながら、近隣への迷惑にならないように努めていく。